

本町初となる海外自治体との友好交流提携

# 台湾新北市烏来区と友好交流提携を締結

【速報版】

7月14日、台湾新北市烏来区と白糠町は、様々な分野で交流を図るため、自治体間の友好交流提携を締結しました。

7月13日、台湾新北市烏来区と友好交流提携を締結するため、棚野町長や板谷教育長、石田副議長をはじめとする町議会議員、佐野代表監査委員、白糠アイヌ協会・白糠駒踊り保存会・北海道くしろ蝦夷太鼓保存会の会員と町職員総勢55人の訪問団が3泊4日の日程で台湾に向け出発しました。

この友好交流提携は、烏来区と白糠町の自治体間において先住民族の交流を礎とした文化・芸術・教育・観光・経済など幅広い分野での交流推進を図ることを目的としています。

契機となったのは、烏来区のタイヤル族と白糠アイヌ協会が平成23年から相互訪問による文化交流を継続してきた中、さらなる交流発展を図るため、昨年11月に烏来区原住民編織協会と白糠アイヌ協会が友好交流提携を締結したこと

いで互いに準備を進めることで合意しました。

14日、台湾新北市烏来区公所で行われた締結式には、烏来区から高富貫烏来区長や楊馨怡新北市政府原住民行政局長、烏来区の議員、烏来区原住民編織協会の会員、烏来区の住民代表などが、白糠町からは、棚野町長や板谷教育長、石田副議長をはじめとする町議会議員、白糠アイヌ協会の会員が出席しました。

式では、編織協会の会員による歓迎の歌と踊りが披露され、日本語と中国語で作成された覚書に高区長と棚野町長がそれぞれ署名した後、立会人の楊局長と石田副議長が署名を行い、高区長と棚野町長は、満面の笑みで固い握手を交わしました。

高区長は「今日、白糠町と烏来区が正式に友好交流提携を締結できたことは、双方にとっても非常に重要で喜ばしいことであり、今後、互いの先住民族であるアイヌ民族とタイヤル族の文化交流を礎に、あらゆる面で交流を深めていきたい」とあいさつしました。



▲友好交流提携覚書に署名をした左から楊局長、高区長、棚野町長、石田副議長